

## (6) 環境NPOと学校によるパートナーシップ「PTCA」実践例 NPO法人「こども環境活動支援協会」

### 「NPO法人こども環境活動支援協会」の取り組み

こども環境活動支援協会（以下「支援協会」）は、京阪神地域を活動拠点とし、市民・行政・事業者の連携を深めながら次代を担う子どもたちの環境活動を応援することを目的に、平成10年4月に設立されました。平成14年4月には、特定非営利活動法人（NPO法人）に認証されています。具体的には、以下のような環境学習事業、環境活動支援事業を実施しています。

- ① 地球ウォッチングクラブ＝EWC活動（西宮市からの受託事業）  
西宮市内の全小中学生にエコカードを配布し、小学生が環境活動・環境学習をすれば、市内のお店・企業・地域団体等からエコスタンプをもらえるという学習活動システムの整備。
- ② 企業会員と連携した小中学生用学習プログラムの開発
- ③ 子どもたちの自然体験活動を促進する「自然体験活動リーダー養成講座」  
（（財）ひょうご環境創造協会も共催）
- ④ 世界の子どもたちとの環境学習交流事業（ホームページ、情報誌等による交流）など



### 「PTA」へのエコ活動サポート事業＝「PTCA」活動

今、様々な教育問題が生まれ、「総合的な学習の時間」の導入を通じて「生きる力」を育むなど、地域や保護者が学校教育にかかわっていくこと、地域で子どもを育てるということが重視されています。

小学校では、子どもたちの6年間の学習を継続的にとらえていくことができる存在として、保護者がいます。支援協会は、EWC活動の一環として、生活科や「総合的な学習の時間」などの授業における「生活体験」や「自然体験」を重視した環境学習のプログラムを保護者＝PTAと共に作っていったり、実施する上のサポートを担う「PTCA」活動に取り組んでいます。

**「PTCA」とは？**  
PTAが中心となって、PTA活動に地域の住民（C＝コミュニティ）が加わり、地域一体となって子どもたちの教育に参画、協同する新たな教育体制をいいます。  
PTCAによって、学校は地域に支えられ、地域に貢献していく「地域の学校」として地域に開かれ、地域と共に発展していくものと考えられます。  
（「兵庫PTCA」PTCA支援事業の展開より）

環境学習を始める前に、

お名前 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_

お住いの市町村 \_\_\_\_\_

お電話 \_\_\_\_\_

お郵便番号 \_\_\_\_\_

お預金口座の支店名 \_\_\_\_\_

お預金口座の口座番号 \_\_\_\_\_

お申し込みの人数  当日参加の予定人数

どんな目的で？ 保護者だけで学習する場合、子どもたちと一緒に活動する場合

いつやる？ 春、夏、秋、冬、学期に合わせたプログラムを選びましょう。

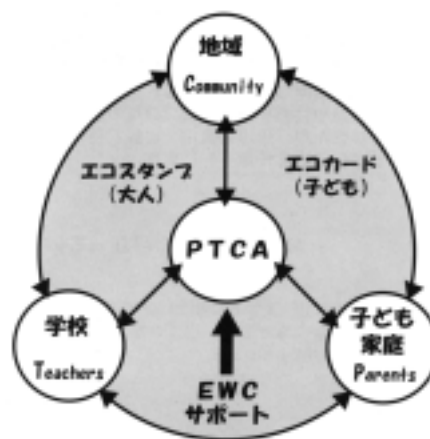
どこで？ 学校内に限らず、地域学習と合わせて考えれば、地域にある公園や川、海でも設定できます。見合わせを確認しましょう。

なにを？ 「プログラム紹介」を参考に案を出し合ひましょう。

意見がまとまったら、活動実施予定日の2ヶ月前頃に、PTA事務局にご相談ください。

支援協会へのPTAサポート事業申込用紙

- ① PTA学習活動への講師派遣  
学年で学習している事柄に応じてテーマを選んでお話しします。（ごみとくらし、身近な生き物ほか）
- ② 活動内容へのアドバイス  
PTAで環境学習活動に取り組む際に何をどんなふうにしたらいいか、相談にのります。
- ③ 施設見学の実施  
事業所や施設を訪問し、実際の社会の動きを学習する機会を提供します。
- ④ プログラム開発と実施のサポート  
保護者が子どもたちのリーダーとなってすすめる授業中の学習活動の企画と実施のサポート、アドバイスをを行います。



この学校・家庭・地域をつなぐのがEWCのエコカードです。エコスタンプを押すことで子どもたちのまわりの環境活動が「目に見えるかたち」になります。

## 「PTCA」実践例 「すばらしい命との出会い・ふれ合い」

平成14年度 西宮市立平木小学校5年生

平木小学校5年生では、「総合的な学習の時間」の活動において、教員、PTA（保護者）、地域、NPOが連携して年間を通じたプログラムを作成しました。

### プログラムのねらい

- ① 様々な命との出会いとふれ合いを大切に、「生きる」ということ、「生きている」ということを、様々な人の生き方や自然体験や活動を通して考え、命のすばらしさに気づかせる。
- ② 自分の命はたくさんの命に支えられていることに気づき、自分を大切にしようとする心を培い、いろいろな命とつながろうとする意欲を育てる。
- ③ 自分の体験や思いをまとめたり、伝えたりする力をつける。
- ④ 自分たちのくらしは、自分たちで作ろうとする意欲や態度を育てる。

### 学習を支える各主体の役割

- ・ 教員：学校で学習活動を運営する。
- ・ PTA（保護者）：継続的な視点で学習をみる、かかわる。家庭での生活と学習をむすぶ。
- ・ 地域：地域で子どもを育てる視点で学習活動に具体的にかかわる。
- ・ NPO（支援協会）：学習活動を企画提案したり、各主体間をつなぐ。

### （教員からみた平木小学校5年生の特徴とテーマ設定理由）

とても純粋な心を持ち、自分たちの感情をストレートにぶつけてくる子が多い。入学してから今日まで、ずっと1クラスで過ごしてき、お互いを良く知り合えるという良さの反面、年に2、3人の転入だけという固定された人間関係の中で、新たな命と命の刺激も少ない。そのために「あの子はこうなんだ」と思いこんだり、「自分はこんな人間だから」とあきらめる場面をしばしばみかける。また、日々の生活の中で、まだまだ自分や仲間の値打ちに気づけない光景を目にする。そのためにも、命の尊さを学習の中で学び、生活に結びつけていく必要を感じている。

この1年間、「すばらしい命との出会い・ふれ合い」を大テーマにして、「生きる」「生きている」ということの意味やその素晴らしさを子どもたちと共に学び、感じてみたいと思った。その中で「自尊感情」の芽を育てること、また人間関係も生活範囲も狭い環境の中で子どもたちがもっている「もの」とらえ方」や「価値観」「生き方」に新しい空気を送り込むことができたと思う。

## （依頼から実施までの経緯）

平木小学校では、平成12年度から3年間にわたって継続的に子どもたちの学習活動にPTAや地域、NPO（支援協会）がかかわっています。米作りの取り組みも3年目で、学校の中に土を運び、田んぼを作っています。学校ビオトープと同じように作りました。

支援協会とは、学習の事前打ち合わせ、準備、実施、そして次の活動につながる事後の打ち合わせを、適宜学校やNPO事務局などで行いました。

準備物は、全て学校で用意しました。物品代は学校の負担ですが、支援協会が委託を受けている西宮市の環境学習支援事業の一環なので、NPOスタッフの人件費は市の事業費に含まれています。

## （学習計画）全110時間

### （1）命の育ちをみつめて

#### ①平木米を作ろう（40時間）

苗作り、田おこし、代かき、田植え、草取り、稲刈り、収穫祭（お世話になった方々を招待。おにぎり作り、わらじ作り、外国の人も招待し、交流する。）



### （2）自然をみつめて

#### ①自然の中でくらししてみようー自然学校ー（25時間）

グループ活動の企画や、一人で自然と自分を見つめる時間もとる。

### （3）人をみつめて

#### ①ともに生きよう（12時間） 今までお世話になった人達とのいのちのつながり

#### ②働く人たちをみつめて1（5時間）

米作りを通じて、農業を営む人の立場、農業と私たちのくらしとのつながり、今後の課題について自分なりの認識、意見をもつ。

### （4）社会をみつめて

#### ①隣の国の言葉に親しもう（4時間）

#### ②英語活動（12時間）

#### ③インターネットでいろいろな情報を集めよう（8時間）

### （5）自分をみつめて

#### ①働く人たちをみつめて2（5時間）

言葉の課題、世界とのつながりに気づく



## （学習の流れと支援協会、PTAのかかわり）

### 【1学期】

米作りでは、事前授業から下準備、田植え、その後の指導まで地域の農協職員と農家とのかかわりの中、PTAも参加する形で行われました。支援協会は、各活動の教員、保護者、農家等の役割分担のコーディネートを行いました。また、7月に行われた5泊6日の自然学校では、支援協会が担任の教員と相談しながら内容づくりを進め、実施にも支援協会のスタッフがかわりました。

### 【2学期】

すくすく育った「平木米」を農協職員と農家の方の指導で収穫し、お世話になった方々を招いて「収穫祭」を行い、自分で作った米を味わいました。また、収穫して残ったわらを使って、農家の方に教わってわらじを作りました。保護者は事前に練習をして、当日指導に参加しました。学校を訪問した外国からのお客さんに、自分たちの米作りの取り組みを、通訳を交えて発表し、その後一緒にわらじ作りに取り組みました。

### 【3学期】

これまでに学んだことを元に、自分たちでテーマを選んでニュース番組を作成し、ビデオに収録して校内で発表しました。

また、学年で環境フォーラムを開き、環境や社会に対して自分ができることや、自分たちの活動を振り返って検討したことについて発表し、6年生の学習へ継続する取り組みを行いました。

#### （子どもの感想）

・いつもごはんを食べているけどつくってくれる人のしんどさがわかりました。平木小の田んぼは小さいけどほんとうの田んぼはもっと大きいからもっとつかれると思っています。おいしいごはんのうらには、苦労とつかれがあるとおもう。

・私はこの米作りをして本当によかったと思います。外国の人たちと交流できたのもお米作りがあったから私はそうだと思います。自分達で作ったお米なんだとすごく感じました。でもすべて私たちで作ったわけじゃありません。地域の農家の方や先生、リーダーや家の人、地域の人他いろいろな人にも手をかりながら進んできたこのお米作りです。

#### （保護者の感想）

・今日の家庭科の時にA君が私の所に来て、「この前のフルーツサラダありがとうございました。とってもおいしかったよ。」と言ってくれて、私もすごくうれしかったです。そして家に帰ってBさんから「今日はありがとうございました。お礼が言いたくて電話をしました」って電話があり、今日1日は子ども達にいい気分させてもらい気分がいい1日でした。

### その他「PTCA」活動メニューへのお問い合わせ

メニューの詳細、申し込み方法等は、西宮市・支援協会作成「EWC 環境活動をすすめるために for PTCA」に掲載しています。

他の市町の方でも、やり方を参考にしたい、活動メニューの資料がほしいという場合は、下記にご連絡下さい。

#### お問い合わせ・お申し込み先

NPO法人 こども環境活動支援協会（LEAF）

〒662-0855 西宮市江上町3-40 西宮市環境学習ルーム内

電話 0798-35-3804 FAX 0798-35-4208

URL <http://www2.ocn.ne.jp/~leaf-j/>

